

AMDAが大槌に診療所設置へ 地元医師の拠点を確保



東日本大震災の被災地に医療チームを派遣している国際医療援助団体AMDA(アマダ、岡山市)は、大槌町内に仮設診療所の建設を計画している。

学校の再開に伴い避難所が閉鎖された後、地元医師の診療拠点を確保し、現場の医療を通常に戻す足掛かりをつくるのが狙い。

4月中をめどにプレハブの診療所を設け、心電図や点滴、エコーなどの機器を導入する予定。具体的な時期や建設地は、自治体の復興計画や地元医療施設の新たな建設予定地、避難所から出た人がどこに行くかなどを考慮して決める。

仮設診療所では、避難所ではできなかった本格的な診察に当たり、保険も適用する。大槌町のほか、宮城県南三陸町にも建設する方針。開設後、大槌町で活動しているAMDAの医師や看護師は引き揚げる予定。

(2011/04/07)